

## 東京石桜同窓会の現況

会長 雪ノ浦 弘

(旧17回後期生)

毎年一〇月下旬頃の週末の夜、関東一円に在住する同窓生が一堂に会し、それぞれの思いを込めて声高らかに校歌を斉唱する。何とも言えない至福の一時である。

東京石桜同窓会はかなりの中断があった後山中順三元校長の示唆により再開したもので



あるが、早いものでこの秋の会で一四回を数える。

六回目の同窓会だと思うが、アトラクションとして、国立音大教授の瀬川武氏(新12回生)に独唱をお願いした。素晴らしいテノールに参加者全員が酔いしれたが、その後盛岡でも同窓会の主催でバリトンリサイタルを開き大盛会だったと聞いている。

また一〇回記念会の時、浦田隆氏(新6回生玉川大常務理事)の協力をえて玉川大グリークラブの男女混成合唱による「みちのくの歌」



を披露してもらったが、この中に母校校歌と応援歌があり、聞きなれない女性の声が混ざった校歌に感激した。その後大好評なので今でも会の時BGMとして使用している。

東京における同窓会活動は「岩中会」という名称で、元理事長の三田義一氏が会長となり、活発な活動を展開し在京の学生たちはこのことで大変勇気づけられていた。私も数回参加した記憶があり楽しい思い出である。

本会は中断していた岩中会の意思を引き継ぎ、さらなる発展を期している。

しかし、卒業生の一割約九〇〇人の会員数は盛岡に次ぐ大世帯であり、全体の情報はつかみ切れないのが現状である。したがって、本稿の要請である人物紹介は紙数の不足もあり、ここでは旧制の一部先輩諸氏を紹介するにとどめる。

太田勇氏(旧1回生)は同窓会にほぼ連続して出席していただいている元気な旧制の代表格。川崎清久氏(旧3回生)も健在である。旧制の同窓生はすべてが六五歳を過ぎており退職して第二の人生を謳歌している人が多い。そのなかで鈴木龍雄氏(旧6回生)は会社顧問として頑張っており、辻公一郎氏、吉田大三氏(旧12回生)、東京同窓会前会長、同副会長、また湯沢一晃氏(新15回生)は医師としてますます活躍中である。

# 山田石桜会短信

貫洞 利一

(新20回生)

当支部は、陸中海岸国立公園の中央に位置し、山田湾・船越湾の天然の良港に恵まれた景勝の地を背景にして、人物も多彩であり、毎年かかすことなく総会を開き懇親を深めております。

わが大先輩で昭和六年卒（八四歳）の昆正助さんは、支部長であり、旧岩中卒第一号の医師。昆医院の初代院長であります。次いで昭和二年卒の素封家の豊間根彪さんは、山田町の町議会議長などを務めた顔役であり、二年卒の木下善三郎さんは、郷土史研究家として歴史ブームに乗って多忙。二七年卒の安西主税さん、二八年卒の安西弘次さんは、共に安西製材所の経営に参画。同年卒の熊谷壮一朗さんは山田町内大手の、菊屋薬局を経営並びに下関薬剤師協会長を務める。三〇年卒の熊谷剛好さんはその支店を経営しております。なお、二八年卒の川村健一さんは、岩銀の支店長を務めました。定年退職して悠々自適。三三年卒の千代川泰久さんは、千代川歯科医院長として、三五年卒以降の医師としては、熊谷維克さん（熊谷医院長）四〇年卒の後藤尚さん（後藤医院長）、浦辺堅次さん（うらべ内科クリニック院長）などが極めて元気がつ多忙であります。

四〇年卒の昆彦彦さんは大成火災。四一年卒の間瀬半蔵さんは老舗である尾半商店を経

営、四二年卒の立花正男さんはマリントクシーを経営しており、四三年卒の千代川千代吉さんは薬剤師として県立釜石病院勤務。四三年卒の貫洞利一（支部幹事長）は貫洞建設を経営。同年卒の佐藤省二さんは宮子市役所勤務であります。四四年卒の白土和男さんは、おまつや商店主として、四五年卒の鈴木富博さんは山田消防署勤務。五一年卒の小林由紀夫さんは、山田中学校教員として、また五三年卒の伊東尚さんは、共立冷凍K専務をしております。

以上のように述べてみますと昭和二〇年卒から昭和五三年卒まで、ほとんど切れ目なく顔を並べておりますが、五四年以降の同窓がみえないことはいささか寂しい気がします。

## 久慈石桜会のこと

大橋 義平

(新4回生旧姓山館)

久慈石桜会は昭和三〇年代前半故久慈義己元県議市長（旧4）を会長に発足し、沢野亮二二代会長（旧12）を経て、現在会員約五〇名、三代目の斎藤昭内科院長（旧17）を中心に年一度を目標に同窓会を開き、親睦を深めております。

若中野球部が中体連の盛岡代表として二度当地に来たが、有志で宿を訪ねて激励したり、試合の応援に行ったのも懐かしい思い出です。一度目は試合終了後久慈海岸に案内し、生徒とともに登山帽をかぶったまま泳いだ戸嶋先

生の姿が深く、印象に残ります。

また初代会長が県議初当選の前に開いた同窓会に山中先生が出席され、ともに必勝を期して激励されたこともありました。

昨春久慈義昭市長（新15）の五選を果たした選挙でも激戦突破へ同窓生の貢献が少なからずあったものと思われまます。

新体制の岡野由裕事務局（新30）、割烹小竜・岩館孝房（新35）を会場に今年二月の例会には七〇代から二〇代まで二五名が集い、はるか母校を偲び、校歌応援歌を絶唱し、青春にかえり歓談して楽しい夜を過ごしました。結成以来三〇余年、主な常連の方々を紹介します。

中村正計（旧10）高木勲（旧15、靴店）鍋倉次雄（旧17）斉藤政光（新21、誠堂）中塚是昭（新3）大上制吉人（新6、自動車販売）熊谷正利（新11、北山崎レストハウス）熊谷邦隆・村上広文（新15）三河景（新17、自工）早野善和（新20）小笠原祥之（新20、獣医）清水恭一（新22、商）柏木勝朗（新22、新宏堂）村田昌明（新24、歯科）田口淳（新30、同）谷村良三・羽行常人・二橋修（新25、どさんこ）中野静児（新26、北桜堂）下館孝光（新27、工務店）玉沢文造（新26）沢里清公（新23）二又寿大（新42、市役所）遠藤太紀雄（新4横浜）その他教員、銀行員、公務員等転勤族の中で連絡がついて参加される方もおられます。特に阿部孝明（新35、長内中教諭）は空手の功績で市民体育賞をこのたび受賞されました。以上久慈地区の概況を報告いたします。（敬称略）

## 釜石石桜会の歩み

鈴木 雄壽

(新2回生)

支部発足昭和五四年

設立者 初代会長鎌田禎氏(旧12回生)

鎌田先生(現在花巻市)が釜石工業高校の校長として着任された時設立され、離釜されるまでお世話になりました。

釜石市、大槌町、山田町在住の有志で大体二〇名程の出席者になりますが、一回生の遠藤貫中校長(当時)松見得明同窓会長(当時)にご来釜願い、釜石の川畑篤司、大槌の道又弥平、山田の昆正助の各氏で一回生が五人も揃う同窓会でした。後に西在家、村上(数回)菊地各先生のお世話になっております。

釜石石桜会がタドタドしい足取りでも歩いて来れたのは、溜まり場として小野寺勲氏(新9回)の経営するバー「シロー」に噂を伝え聞いて、転動して来た人達が集まってくれたからであり、今後ともお知り合いの方に吹聴していただきたいと思えます。

常連は小野寺氏の他に、元気な道又弥平氏、小野寺哲氏(新4回)、釜石市役所を退職して鶴住居保育園の園長。昆政克氏(新10回)は昆政商店の社長でガソリンスタンドで陣頭指揮をしています。牛崎一行氏(新17回)は森建設の社長でライオンズクラブ等地域活動に貢献、ラグビーの瀬川雅三先生(新5回)も釜石南高、釜石工業のラグビーを強化されました。また、現在は帰盛されましたが、釜

石支部にご尽力いただきました、村井孝一氏(新1回)大銃地久男氏(旧18回)木村精志氏(新2回)には感謝しております。他に菊己ガソリンスタンドの菊池平太郎氏(旧14回)、今も東海新聞に寄稿しておられる八木(三輪)重成氏(旧17回)、また今回紹介しかねましたが、若い同窓生も多くおられますので、なるべく年一回位は同窓の集いを持つようにしたいものと考えております。

## 雫石石桜会のこと

佐々木 敏

(新14回生)



昭和五五年三月設立顧問村上一富(旧9回)会長平井正悦(旧13回)副会長吉田耕三(旧14回)藤本徳文(旧17回)竹花憲一(理事旧14回)平藤七郎(旧17回)小田中弘(旧17回)五日市泰(新3回)太田原弘明(新9回)篠村幸一(新10回)米沢房男(新12回)上野真(新16回)高橋茂樹(新16回)笹田裕一(新19回)階研司(新21回)安食久(新23回)柿木尚登(新6回)坂井彰(旧14回)監事高島一(新2回)渡辺貢(新4回)佐々木利之(新10回)のメンバーで発足。

わが雫石石桜会の特色は在校生をまじえての行事が多いことです。ソフトボール大会、焼肉会等です。また、隣村の滝沢村石桜会との交流会も行われております。

現執行体制は会長吉田耕三(旧14回)、副会長平藤七郎、藤本徳文(旧17回)でその他の役員は変わらず運営されております。

会員も名簿上は七〇名ぐらいおりますし、在校生も三〇名ぐらいおり一堂に会する時は五〇名ぐらいになり、エール交換や校歌、応援歌を歌うなど楽しいものになります。

同窓会本部の松見会長はわれわれの総会への参加を楽しみにしているとのこと。

さらに雫石役場石桜会(会長南黒澤實・新7回)も同時に設立され、新人の歓迎会、雫石石桜会の事務的なことを行っております。雫石町営野球場に来場する岩手高校野球部にはその都度差し入れをするなど、激励しております。

最後になりましたが、故人になりました平井正悦氏(旧13回)煙山圭相氏(旧16回)、

杉田真氏（新20回）の冥福をお祈りしペンを置きます。

## つなぎ石桜会通信

佐藤 純悦

（新12回生）

つなぎ石桜会の近況をお伝えすることによって地区内での石桜会の存在の大きさと、これからの展望を汲みとってもらいたく、粗末なペンをとらせていただきます。

つなぎ温泉が今県下有数の温泉に成長してきた経緯は先人たちのたゆまぬ積みかさねがあるものと思います。今や北東北の有名な温泉に成長してきた中で、石桜会の存在が大きなウエイトを占めて活躍している姿は私学の岩手中・高校の卒業生として大いに誇りに思うものであります。つなぎ石桜会の先達は故高橋金光（旧12回生）で豪放実直な人柄で、高橋金兵衛（岩中16回生）の父である。ホテル大観の社長 佐藤義正（岩中新3回生）はホテル・旅館業界のトップとして県環衛同業組合理事長・観光協会会長として面倒見の良い人望厚き人である。温厚な人柄の佐藤克（岩中新7回生）はホテル大観の専務として社会の情勢に通じていて、盛岡市長選に遂に立候補、母校から市長をの願いは惜しくもあと一步のところであった。

高橋金兵衛（岩中新6回生）は市議会議員のホープとして、県神輿会の会長・臨濟寺花園会東北総代会の会長に就任し、ゆくゆくは

あらゆる分野で上の方にいく人物である。菊地義男（新8回生）は愛真館常務として奮闘している。久慈勉（新10回生）は大観商事社長。細川市男（新15回生）は盛岡女子高校バレー監督として有名である。

桑原和春（新20回生）はホテル三春社長。高橋清郎（新23回生）は高清建設社長。広瀬祐（新17回生）・佐藤昭男（岩中新18回生）・高橋勲（新13回生）・佐藤悦助（新18回生）・佐藤哲史（新30回生）・高橋茂見（新24回生）・米内聡（新27回生）・村上元司（岩中新14回生）・村上説夫（新18回生）・川村正良（新13回生）等が地域でがんばっている。

母校の発展を願う者として、つなぎ石桜会はいつも熱い思いを胸にエールを送っている。岩手中学・高校は永遠に不滅である。新しくよみがえる母校のさらなる発展を祈る。

（湖畔の宿さぜん社長）

## 県庁石桜会より

武藤 正吾

（新14回生）

岩手中・高等学校創立七〇周年を迎えたことは誠に慶賀に堪えないところであり、心からお祝いを申し上げます。

県庁石桜会は、県庁及び県関係団体等に勤務している卒業生が、相互の親睦と連携を深め、もって会員の資質の向上に資し、石桜精神の高揚を図ることを目的に、昭和四四年二月に発足したところであり、それ以来、現在

で二七年を数えたところです。

記憶が臆気ではありますが、発足当時を振り返ってみますと、二月二八日、会場は市内丸の秀清閣多賀（現テレビ岩手本社）、来賓に山中順三校長、松見得明石桜同窓会長、久慈義巳県議会議員をお招きし、五八名の出席の下、企画部長熊谷龍男氏（旧5回生）を初代会長に選出して盛大に発足したのでした。

当日、小生は県庁に勤務してまだ数年足らずの青二才であり、また、出席者のなかでも



一番若かったこともあり、同窓の先輩というよりは、仕事の大先輩の皆さん方の堂々たるものに威圧感を感じたものでありましたが、また、心温まるものにも充分触れたものでもありました。

以来、本会は、会の目的達成のため、原則として年度毎に総会（懇親会）を開催し、その際には来賓として、学校長、同窓会長等に出席いただくとともに、本会の顧問である石桜同窓会員の岩手県議会議員、市町村長にも出席をいただき、その時々話題に花を咲かせながら、先輩後輩の枠を越え大いに連携を深めるとともに石桜精神の高揚を図ってきたところであります。

また、平成五年二月開催の総会では、現在活躍をされている同窓の方をお召しして講演会をお願いしようということで、直木賞作家高橋克彦（新19）氏にお願いをしたのですが、同氏の原作によるNHK大河ドラマ「炎立つ」の放送を目前に控えてのこともあり、出席した会員からは大好評を博したところでありました。

なお、総会の際には、出席者に会員名簿を作成・配付しておりますが、会員の動向を知ろうと重宝がられ、何よりの財産となったのでした。

現在の会員はおおよそ二五〇名余りで現役一六〇名余、OB会員八〇名余、となっており、

これまでに県庁7の組織の中で重要なポストに就いた会員は数多くおり、特にも、県の幹部職員として、企画部長、福祉部長、林業

水産部長、企業局長や監査委員事務局長、県立病院長、出先機関の長、課長等の重要な職を歴任した会員も数多くおり、現在も幹部職員として活躍中の会員もおります。

特筆すべきは、業績顕著により叙勲受章や大臣・省庁表彰受賞された会員があつたことです。

殊にも、昭和六一年春に熊谷龍男氏が勲四等旭日章授章（地方自治に関する功績）を、平成四年秋には佐々木益人氏（旧10）が勲四等瑞宝章（地方自治に関する功績）を受章されたことです。

同窓会会員はもとより、県庁の後輩としては誠に喜ばしい限りであり、大いに誇りに思うものであります。

ここで、歴代の会長を紹介いたしますと、二代・監査委員事務局長菊池強氏（旧8）、三代・福祉部長松尾景康氏（旧8）、四代・林業水産部長佐々木益人氏、五代・花巻保健所長牟岐梧樓氏（旧13）、六代・監査委員事務局長村上昇氏（新5）と続いてきたところです（注・職名は会長就任時）

最後に、岩手中・高等学校が創立七〇周年を一つの節目として、伝統ある私学としての存在を示し、今後益々発展していくことを願うものであります。（県庁石桜会世話人）

## 医大石桜会から

齊藤 誠

（新18回生）

岩手医科大学石桜会について少しのべてみ

ます。何分資料不足のため発足当時の詳しいことについてはご容赦いただきますが、会の趣旨は、職域団体として学内外の医科、歯科、大学出身者と岩手医科大学職員で構成され、学術向上と親睦をはかるため結成されたものであります。

昭和四五年七月、大通りの料亭京極において初代会長川村芳夫先生（旧2回生、川村産婦人科）幹事長に鈴木一先生（旧8回生、第一内科講師）学内支部長に佐藤幸朗（旧14回生、事務部、現岩手高校教師佐藤正俊先生の兄上様）が中心となって新入会員の歓迎会が開催されました。

昭和五二年春、最初の医大石桜会名簿を作成し、入会した会員数は一七一名と多数でありました（学生も含む）。

昭和五三年、赤坂俊夫先生（旧9回生、現赤坂病院理事）が第二代会長となり、幹事長に佐藤幸朗氏、学内支部長に小笠原敏雄氏（新6回生、事務部）が就任し、第一内科助教授玉沢佳巳先生（旧18回）の岩手医科大学退職送別会を、遠藤貫中学校長、松見得明同窓会長、栃内松四郎副会長のご出席をいただきましてむら八本店で行ないました。会費は、当時としては高額で参加できないのではないかと心配したにもかかわらず、「一般職員は半額にする」しかも「若い芸者さんがお酌に来る」というので、多くの会員が出席し、盛會に終わりました。（若いお姉さん達と言つても四〇代後半のおねくさん。当時三〇歳であつた私は、これは旨くのせられたと思ひ、幹事長の佐藤幸朗さんに「どこにも若い芸者さ



んなんか いなじやないですか」と文句を言う。幹事長少しも慌てず杯をグイと飲み干して、「おめはんダズから見れば年増ダドモ、おらガラ見れば若い美人の芸者さんダズダよ」うくんなるほど)

平成元年、三田俊夫先生(新13回生)が神経精神科学講座の教授に就任されました。

岩手高校卒業生の中から、初めて岩手医大の教授就任となり祝賀会をホテルニューカリーナで盛大に行ないました。この年から、金澤源一先生(旧15回生、金澤医院)が副会長、

幹事長に小笠原敏雄氏、学内支部長に秋津武志氏(新9回生、中央放射線部)となり一層充実した医大石校友会となりました。

平成八年四月、岩手高校卒業生二人目の藤岡知昭教授(新19回生)が誕生。泌尿器科学講座教授就任祝賀会を、池口新校長、藤原副同窓会長をお招きし、ホテルニューカリーナで出席者六五名で盛大に行ないました。

このような会で思い出されるのは、お亡くなりになりましたが久保田了康先生(旧19回生)です。いくら診察で遅くなってもかからず出席して下さいました。会場に入ると背筋をピンと伸ばし「先輩方、久保田了康遅れてすいませんでした」と盛岡弁で挨拶があり、いまでは懐かしく思い出されます。

会則には、年一回総会を開くことになっておりますが、現実には祝賀会を除けば数年に一度の開催になっております。

将来は、赤坂俊夫医大石校友会を中心に、岩手医大関係にかかわらず、医科歯科系出身者の集まりの場として、組織拡大を図りたいと願っております。現在の会員数二二九名。(他の大学出身者も入会しております) 入会希望の方は左記までご連絡下さい。

(学内支部長)

盛岡市内丸一九一一  
岩手医科大学石校友会学内支部

TEL 六五一―五一一(内)三二一八

この項の冒頭で述べたように、地域、職域あるいは部活動毎の同窓会の支部的存在は前記以外にも多い。

地域では右のほか、宮古、紫波、矢巾、岩泉、滝沢等

職域では、盛岡市役所、川徳、盛岡信用金庫等また建設業界の集まりもある。

ここでは原稿の切の関係もあって、すべての現況について網羅できなかったことをお詫びしたい。

鈴木卓苗初代校長が標榜した学園主義もたらしたもののなか、兄弟親子同窓が多いことによるのか、人数が多すぎなかったせいかわが校はあたかもファミリーの感触が他校に比べて特に濃いように思う。

それはこの「七〇年誌」に寄せられた卒業生各位の文からも随所にうかがわれる。同窓会理事会の会合や、社会での偶然の出会いにおいても、そのことを体験した人は多いだろう。

中学・高校六年の一貫教育の大切さはここにもあると指摘する人もある。

いずれにしても私学における同窓生の連帯感、重宝であり、母校愛に直結して、母校の絶え間ない発展を願う心の結集になる。

同窓生のこの気持ち絶えることのない限り岩手中・高等学校の発展は約束されるといって過言ではあるまい。